

日経平均747円安

新変異型を懸念 NY株、一時1000ドル安

26日の東京市場で日経平均株価は前日比747円安の2万8751円で取引を終えた。米株式市

場ではダウ工業株30種平均の下げ幅が一時1000ドルを超えた。南アフリカで新型コロナウイルス

高・ドル安が進んだ。(関連記事をグローバル市場面に)



の新たな変異型が検出されたと伝わり、経済再開が妨げられるとの懸念が世界に広がった。リスク回避の流れは外国為替市場にも波及し、一時1ドル1113円台前半まで円

およそ1カ月ぶりに終値で2万9000円を下回った(26日、東京都中央区)

日経平均の下げ幅は、米国で利上げの前倒し観測が高まった6月21日(953円安)以来の大ききだった。東証株価指数(TOPIX)の全33業種が下落した。日本航空が一時7%下げ、ANAホールディングスも同6%下落。京成電鉄は終値で6%安となった。

海外市場でも香港のハンセン指数が3%下落し、10月上旬以来の安値をつけた。シンガポールや台湾、インドなどの主要指数も軒並み2〜3%程度下げた。欧州株も下落して推移。ドイツや韓国をはじめ世界的に新型コロナウイルスの感染が再び広がるなか、高い感染力を持つ恐れがある変異ウイルスへの警戒が強まった。週末を控え、リスクを圧縮する動きは幅広い資産に及んだ。中東産ドバイ原油が3%安となったほか、下落が続いていた円も売り持ち高を解消する取引が出た。